

会議の名称	平成１９年度 第６回 鳥海地域協議会
開催日時	平成２０年３月２５日（火） 午後３時
開催場所	鳥海総合支所 講堂
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	（次葉 取消線の者）
（会議次第） １．あいさつ 鳥海地域協議会副会長 理 事 ２．協議事項 ①平成２０年度由利本荘市予算の概要について ②その他 ３．総 括 鳥海総合支所長	
会議の経過	別紙のとおり

(委員30名)

[illegible]

(会議の経過)	
第6回 鳥海地域協議会	
平成20年3月25日(火) 午後3時 開会	
	(開会) (資料確認・説明)
村上振興課長	「ただ今より、平成19年度第6回鳥海地域協議会を開会いたします。はじめに、大友鳥海地域協議会副会長よりご挨拶申し上げます。」
大友副会長	「平成19年度最後の開催となりますけれども、皆様には年度末で何かとお忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。本日は、松田会長さんが入院中という事で、私も戸惑っているところでありますが、みなさんの協力を得ながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。前回の会議では、出張所やスキー場の廃止についてのお話がありまして、一応廃止は見送りとなり一安心しておりますが、やはり地域の声は地域で出していかなければならないものだなあと痛感しております。今後もこういう問題が起こらないとも限らないので、納得出来ない場合はやはり声を大にして意見を出し合い、住みよい地域づくり、まちづくりにしていければなあと思っております。本日は、平成20年度由利本荘市の予算概要についてご説明いただきます。説明を伺った後で、たくさんのご意見を出していただきながら有意義な会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。」
村上振興課長	「佐々木理事よりご挨拶申し上げます。」
佐々木理事	「いつも大変ご苦労様であります。今日は第6回目という事で、お邪魔させていただきました。天気もよく、色々忙しいところであったかと思いますが、ご出席いただき本当にありがとうございます。先週の19日に3月定例議会が終了いたしまして、平成20年度の予算が成立いたしました。新聞等でご覧のとおり、予算額一般会計ベースで470億。対前年度比で8.5%、44億円のマイナスという事であります。これは前にもお話してありますとおり、市の財政状況にさまざまな問題がありますので、予算を編成するに当たって担当者もずいぶん苦労したのではないかなと思っております。大体20年度におきましては、新規の事業は原則全部延伸、先送りとなっておりますけれども、この地域におきましては笹子公民館の建設工事、これが新規の事業であります。例外と言えば例外で、まずは20年度は設計、そして21年度に建設という事になっております。そういう意味で当地域におきましては、まずは公民館の建設、あるいは浄水場の拡張整備と言ったものが、非常に大きな事業になってきます。これらの点を含めながら本日の協議会で予算について説明申し上げますので、皆様からご質問等出していただければ幸いに存じます。今日は終了いたしましたから、横丁さんで懇親会という事で、私もそこに参加させていただきたいと思っておりますので、どうか一つかだへでくださいますようよろしくお願いします。」
村上振興課長	「続いて会議に入らせていただきますが、会議の議長は条例第9条第4項の規定により会長が努めます。」
議長	「本日の地域協議会は、平成20年度由利本荘市の予算概要についてご説明いただきます。それでは、振興課長よりご説明をよろしくお願いします。」

村上振興課長	(平成20年度由利本荘市の予算概要について説明)
各課長	(鳥海総合支所所管予算等の概要について説明)
議長	「ありがとうございました。それでは、委員のみなさんからのご意見やご質問を承ります。はい、高橋さん。」
A 委員	「まず全体的な事から聞きたいんですけれども、50数億あった基金が必要最低限の部分を残して底をついたというお話をされていまして、私は先般由利組合病院の運営協議会に出席してきました。由利組合病院というのは、ご存知のとおり、秋田県厚生連という私共農協の上部団体が経営している病院でありまして、そしてまた各自治体から大変な援助をいただきながら運営している病院です。秋田県全体で九つの大きな病院がある訳ですけれども、施設等古くなりまして、順次建て替えをしている状態だそうです。その資金は各病院が上げた上位金と言いますか、利益金を割り振って順序に今まで改築してきたようでもありますけれども、今、鹿角、北秋、五城目、湖東の病院の改築の時期が迫っているにもかかわらず、基金が底をついたそうです。それで、そちらのほうの病院の新築は出来ないと厚生省から止められたという話を聞きました。そしてまた、由利組合総合病院の今年度決算も、市からの援助を得ればやっと赤字黒字カツカツという状況で全く余裕が無い。しかも累積赤字も52億抱えているという状況です。そこに市長も来て話を聞いておりましたけれども、終始発言をしないで頭を抱えているという状況でありました。市も行き詰まり、公共病院、農協もそうですけれども全く余裕が無くなった。それでも、なんとか何とか予定通り物事が進めばいい訳ですが、突発的な事故とか災害が起きると、一体どういうふうな対処するのかなと非常に心配になる訳です。おそらく基金というのは、そういった時のために備えて内部留保しておくんじゃないかなと思うんですけれども、残り9億ですか？本来であれば、適正な基金の額というか、内部留保の水準というのがある訳ですが、そのへんのところを参考のためにお伺いしたいと思います。どれくらい必要なんですか？」
佐々木理事	「適正な水準はいくらなのかというお話ですが、誠に申し訳ありませんが、あればいっぱいあるにこした事はないでしょうし、今由利本荘市の19年度末で8億円前後になると思うんですが、これは最低限必要だと思うんです。除雪だけで、毎年7億くらいかかるので、これだけには手を付けたくないなと、なんとか一つご理解の程。基準の事については、私ちょっと勉強させていただきますので、申し訳ありません。」
A 委員	「私は農協の役員をやっているんですけど、どうしてそういう事を言うかと申しますと、経営の中の内部留保ですか、事故とかがあった場合に備えておく資金、それが私ども合併しまして3年か4年で一度底をついたんです。合併時12億内部留保があったのが、平成14年あたりで底をついて、逆に組合員の出資金を食いつぶすような状況になったんです。ここで発想の転換をし、経営の大改革をやったという経験がある。でも、このままいきますと9億しかない基金も下手をすればこの次の年度には底をついてしまうという可能性もある訳です。今のままズルズルと引っ張ると、今年度は9億残してあっても、来年度の見通しが立たない可能性もある。その点はキチッとやっていただきたい。去年は豪雨がありましたし、ああいふ災害や豪雪に対して充てなければならぬという事もあるでしょうし、今、訳の分からない事故が多い訳ですからそういう点について留意していただきたい。もう一点は、新規事業は全部ストップだという事は、非常に物の考え方として大きい事じゃないかなと思う訳です。正直に申

上げますと、昨年までのこういう会合では発展計画の基づいて着実にやっていくと、合併時住民のみなさんに約束した事は年次をもって着実に実現していくという話をしておりましたので、1年しか経たないうちに、新しく取り組むものはゼロというような事では、私はある意味では住民に約束した事がほごされているとうふうな感じがする訳です。特に先ほどのプロジェクトの中で書いてありましたけれども、産業課の管轄で農業について、昨年から私どもの地域で19箇所集落営農を立ち上げまして、昨年からその活動を始めている訳です。私どもの予想をこえた米価の値下がり、集落営農が今非常に困難な状況に陥っています。そうした中で集落営農に対する支援というものが、昨年は具体的にあった訳ですけれども、今年度は具体的な中身が見えていない。2月に私も集落の座談会に参加させていただきましたけれども、ある集落に行きましたら若い方が自分もこれから集落営農の中で農業を中心に頑張っていきたいと意欲をもって取り組んでみたけれども、あまりの収益率の低さに、他に勤めに出なければどうしようもない、暮らしていけないという事で、せっかくの若い方が離れていかざるを得ないような状況だという報告がありました。そういう事ではいけないんじゃないかと、集落営農に対しても国から来た産地づくり交付金を受けてそれなりの支援はある訳ですけれども、もうちょっと具体的な支援対策をしていただかなければ、せっかく立ち上げたものを維持していけない状況が生まれて来ます。具体的な支援策を講じていただきたいというお願いです。」

佐々木理事

「分かりました。」

B 委員

「予算は議会も通っているので、今さら我々が何を言っても意味がないと思いますが、この中に無いもので一つお聞きしたいと思います。今まで人間ドックを受けると合併前の鳥海の場合は個人負担3千円であった。合併してから昨年末までは8千円であった。今回我々に配布されたものを見れば、人間ドックは2万8千円だと、市の補助は大体3分の1程度という知らせが来てる訳ですよ。そして腸の内視鏡検査はオプション検査だと、こういう事だと2万8千円の3分の1の補助をもらっても、やはり2万近いお金を出さなければならない。内視鏡をオプションでやると、大体1万6千円くらいかかる。ものすごい負担になる訳です。そういう事を考えると、合併前は今より悪くはしないという条件でやったはずだったのに、負担が大きくなると、おそらく今年はドックを受ける人がかなり減るんじゃないかなと感じております。そのへんはどのようになっているのでしょうか。」

三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長

「健診制度が変わったという事は、この地域協議会でもお知らせしてございますけれども、特に鳥海地域は人間ドックに関しては従来通りミニドックという形で健診を進めてまいりますので、従来通りミニドックを受けていただければ大変効率的に行えるのかなと思っております。ただ、保険者がこれからは特定健診を行うという事です。その点について国保のほうは市民課になりますが、国保以外の方についても、私達共済組合の場合であればいくら補助しますというのは、まだはっきりした数字が示されていないというのが現状であります。国保については、市民課長のほうからお願いします。」

佐藤市民課長

「人間ドックについては、受付の段階では福祉保健課で行って、その時期が過ぎますと市民課のほうでも受付をするというのは聞いておりますが、補助については詳しい資料がありませんので、少しお時間をいただきたいなと思います。」

B 委員

「町の時代からミニドックはミニドックでやって、人間ドックは人間ドックでやってた訳でしょ。確かに効率的には安いし、いい訳ですけども、ただ内視鏡はやらなかった訳ですよ。内視鏡をやった時点で3千円出せば、国保で負担すると、そういう形でやってきた訳ですよな。合併して3年、昨年までは8千円で内視鏡もやった訳ですが、昨年からは内視鏡無いんですよ。オプションになったんです。前立腺検査は、由利本荘市の人であればオプションじゃなく、ドックの中に入れるというような事で料金はとらなかったんです。配られたお知らせでは、ドックは2万8千円で3分の1程度の補助。ドックでも内視鏡検査やらないし、ミニドックでもやらない訳ですから、やっぱりオプションになる訳ですよ。それはそれでいいとしても、それでも2万8千円かかるとすれば、ドックを受けるのは大変になると思う。ミニドックに申し込む人がいっぱいになると思います。申込みはいつまでだったか、大体まとまってきたと思いますが、それを見れば分かると思います。かなり減ってくるんじゃないかを感じる訳です。自分の健康ですから、どんなにお金がかかってもやればいい訳ですけども、そのへんのところは合併で後退して来たんじゃないかなと感じます。」

三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長

「医療制度が変わったことによって、基本的に保険者が特定健診をやらなければならない訳ですけども、特に癌検診と人間ドックについては従来ある程度申込みをして、予定を立てて医療機関に予定を組んでいただいてやってきた訳です。今回の医療制度改革で国保は国保でやらなければならないという事ですが、人間ドックを受けたいという方が従来のように医療機関と調整が図れないのではないかとこの事になりますと、非常に混乱する事から、まず従来のように申込みの予定を受け付けて、そしてこの方々については国保とか、社会保険とか、色々分かれておりますので、それを市民課のほうに提示して、そして医療機関から直接人間ドックを受けられる方に連絡をとってもらう形になる訳です。先ほどお話ししましたとおり、それぞれの保険者から補助が違うという事になりますと、受ける側としては心配されると思います。ミニドックの場合は、一箇所である程度の検診が出来るメリットがあって、効率的にやってまいりましたので、そのミニドックについては鳥海地域はそのままのスタイルで行きたいという考えであります。ただ、特定検診は受けなければなりませんので、とにかく受けていただきたいと、受けていただかなければ指導も出来ませんので、特に癌検診については、これからは健康管理のために個別に対応してもらわなければならない、なんとも対応出来なくなってきました。大変重要な事でありまして、市民課と我々福祉保健課が連携を取りながら、4月以降の検診に向けて進めている訳ですけども、後期高齢者医療制度についても、特定検診制度についても国からの指示が非常に遅いという事で住民の皆様にはご迷惑をおかけしております。広報等でも少しずつ出しておりますけれども、それらをご覧いただきながら、細かい事についてのご質問は電話等でも対応していかなければならないなあと準備しているところであります。回答にならないような回答でありませうけれども、確かに助成については厳しい状況になってきております。」

B 委員

「一例を挙げますと、人間ドックというのは普通で言うと補助対象にならない訳ですよな。ミニドックを受けてひっかかった場合は保険がきく。今度後期高齢になる訳ですが、75歳以上はドックの補助は無いという事が言われている訳です。75歳以上になったら受けなくてもいいやあという言い方にもとれるやり方になってきている訳ですよ。ここらへん、私は全く後退して来てるなあと思う。市ばかりでなく、何かもうちょっと急に後退していくんじゃないかと。徐々に後退していくというのなら分かるけれども、やる事がどうも唐突だから、全てが後退してきているような感じがする。そこらへんを出来れば検討していた

	だければなと思います。」
佐藤市民課長	「先ほどの質問で、3分の1というのはそれしかありませんので、2万8千円かかった場合、窓口で健康保険証を提示すれば1万8千円払って、後で国保のほうから直接医療機関に1万円払うという事になります。窓口で健康保険証を提示しない場合は、そこで2万8千円を払ってこなければならぬが、後で役場のほうに請求してもらって本人に1万円を戻すと、それ以上の補助はありませんので、市の独自の補助は無いという事です。」
B 委員	「これまで8千円で出来たのが、1万8千円かかるという事でしょう？」
三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長	「それから、先ほど75歳以上という事でお話されましたけれども、あくまでも4月からの実施主体が後期高齢者医療に移るという事であって、集団検診を受けられないというわけではありませんので、これは受ける事可能です。先ほどお話した、基本健康診査、特定健康診査というものの区分けが、特定健康診査の対象が40歳～74歳までという事で区分けしてる訳です。特にこの40歳～74歳までというのは生活習慣病を早期に予防する事が必要であるという事でそういう年齢区分をしている訳でありますから、決して実施しなくていいとかそういう事ではない訳ですから。」
B 委員	「75歳以上で受けた場合は、1万円の補助は無いのでしょ？」
佐藤市民課長	「後期高齢者医療制度でも、人間ドックについては説明がまだなされていないという状況で、後期高齢者医療というのは国保から移管しているので私のほうでもまだ把握しておらず、申し訳ありません。」
B 委員	「その後期高齢が出る前に75歳以上には補助しないというのは、とっくに出ている。」
議長	「その件について分からなければ、後で調べて回答していただくようにしてはいかがでしょうか。それでは、他に。」
C 委員	「私からは2点ほどお聞きしたいのですが、3ページの鳥海鉱山管理費の中に天然ガスと温泉2つある訳なんですけど、前に温泉の量が少なくなっているという事だったと思いますが、どのような状況になっているのか。」
佐藤産業課長	「ただいまのご質問でありますけれども、確かに量は落ちております。毎分250リットルくらいで推移しており、それをフォレスト鳥海、鳥海荘にもやってるという事です。今のところ極端に少なくて困ったという状況では無いですが、夏場であれば若干そういう不安もありまして、その経過という事で発展計画のほうにもいわゆる3号井の掘削という事でお願いしてありますけれども、予算計上までは至れないという事です。」
C 委員	「井戸の寿命も20年くらいだろうと言われておりますけれども、まだ若干時間があるだろうと思いますが、今、指定管理者に移行する訳ですが、温泉の一番肝心なものが止まったでは商売にならない訳でありますので、一つ理事さんの方で来年の予算の時にご検討いただければなあと思います。」
佐々木理事	「ご心配をおかけして申し訳ありません。この次案について予算要求はいただ

	きましたが、こういった事情なものですから、ちょっと待ってくださいという事で、なんとか一つご理解いただき、本日はご要望としてしかと承りました。どうもありがとうございました。」
C 委員	「もう一点。これも2ページの産業課管轄であります、中山間地の事業だと思いますが、農道とか作業道みたいな今までの中山間地で行われた事業の延長になる訳ですが、そういった要望がまだあると思います。その要望が計画の中に入っている件数、どれだけまだ残ってるのか。それから、それがどういった計画で実施されるのか。」
佐藤産業課長	「この中山間地域等直接支払事業は、いわゆるハード事業ではありません。小さいハードを伴ったソフトという考えでご理解いただければと思います。今おっしゃられたのは中山間地域の総合整備事業の事だと思います。それは農道、水路、集落道、そういったものの事業であります、それはもう事業が終わっております。それにのらなかった例えば小川、下直根、そういったところの農道整備については、今後の基盤整備促進事業の方で対応という事で、農業農村管理計画の中で取り組んでおり、まだまだこれも先延ばしになっておりまして、今の事業が終わったら、ところてん方式という感じで取り組まなければいけないという状況でありますのでご理解願いたいと思います。ここにあがっております1億4千万円につきましては、20分の1あるいは100分の1、急傾斜緩傾斜の交付金事業でありますのでハード事業のものではございません。」
C 委員	「基盤整備の事だと思いますけれども、要望箇所がまだまだ何ヶ所かあると思います。それを聞きたくて。」
佐藤産業課長	「これにつきましては小川地区の男鹿内、吉谷地の南沢、あそこらへんだと思いますが、24～25年の実施年度になるかなという感じです。」
C 委員	「一応計画にはのってたはずですよ。」
佐藤産業課長	「国の事業につきましては、ほとんどプロジェクト関係という事で農業農村管理事業の中で、あるいは市の総合発展計画の中でないとなかなか実施出来ないと、その中で計画しておりますのでご理解願いたいと思います。」
C 委員	「なるべく早期に着工出来るようによろしくお願いします。」
D 委員	「ちょっと話題を変えまして、今日は新年度の予算という事でみなさんがお話しているとおり、どこを見ても減額減額で、果たして鳥海町はこれから大丈夫なのかなと、本当に寂しい感じです。私は2月21日に行って来ました。秋田21女性の会というグループがありまして、主婦の方々の集まりで、秋田県を活性化したいと、主婦の目線で秋田県にいい所はないかという事で。なぜ私が行って来たかという、この秋にこの方々5人が私の知り合いの関係で鳥海町に来てビックリして帰りました。こんな山の中にこんな美しいところがあるのかなって。誘われて私も行って来ました。それでこういうフォーラム遣ってます。これは一番最初、小坂町でやったそうです。いずれにしろ、地域住民がお金が無い、お金が無いとくどいてばかりいたってダメだよと、せっかくいい所があるのに、自分達がもっと目を向けないとダメだよという内容でした。病院も倒産する、地域も倒産する、じゃあどうするのか。外国からも秋田県は非常に注目されてる。その秋田県の中でも鳥海町は本当に自然が素晴らしい。今日は当日の資料を持って来ました。象潟から鳥海山を超えて、猿倉から百宅に来

て院内銀山までのコース。こんなに素晴らしいところがあるのに、なんで地元の人達は宣伝しないのかなと言っていました。予算がないのはこの通りでなんともならないけれども、自分達だけで出来る事はないかなと。実は個人的ですけれども、由利牛を食べたいんだけどどこに行っても美味しい物が無いと。先般アイリスで、由利牛を食べる会とかやりましたけれど、行った方から聞いたとしても評判が悪い。5月の初めに由利牛一頭そのまま食べる会をやるから、佐藤さん協力してくださいと、その相談に31日私のうちに来る。市の予算が無いのをここで話し合ってたって本当に寂しい話だから、これはこれとして発想を変えて、そういうのもこれから新年度に向けて何かこの会でプログラムを作るとかじゃなくても、何か盛り上げる話でも少し出さないと、この会もどうも寂しくて。そういう事でやってますので、みなさんにも丸かじりの時には参加していただきたい。いくらかかるか分かりませんが、西目の道の駅の所でやるという計画で。いずれにしても、行政は行政といたしましても、一般の人達がこのままではダメだからやろうという盛り上がりもありますので、お互いに情報交換をしながらやらないと鳥海町寂しくなるばかりだから。予算の中にも法体の滝の観光については全然書かれてないですな。まずお金をかけるじゃなくてアイディアを出しながらやっていただきたいなと思ってます。」

E 委員

「学童保育の件ですが、先ほど平日は200円、休日は500円という説明を受けましたけれども、200円と500円という算定の基準があるのかどうか。それと、確か今まで無料じゃなかったかなと思うんだけど、それをとらなければならないという理由はどこから出てきてこういう感じになったのか教えてください。」

三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長

「その事については、合併当初すり合わせの段階で議論されました。3年経過してきている段階で、従来から使用料をいただいているという旧市町もございましたし、いただかないところもあった。それを全市統一する時期に来ているという状況の中で、学童保育料をいただくというすり合わせになったという事でご理解いただきたいと思います。額面的に200円、500円、これが妥当な線であるかという事については、基本的な根拠と言われると大変難しい訳ですが、いずれ市の収入については約1800万くらいの収益を見込んでおりますし、使用料については、施設運営に当たって市全体での検討に入っており、全市で統一したというご理解をいただきたいと思います。去年からご利用いただいている方、今年新しく入る方も、学童保育を運営する段階でご説明にあがりまして、利用者が減ってしまうのかなという心配もした訳なんです、その部分についてはご理解いただきたい。」

E 委員

「今、子育て支援とか、様々な補助金が出てる中で、そういった中で回収するというか、もらうという状況が納得いかない点もあるのだから伺いましたけれども、事情が事情でこういう結果だという説明でありましたので。それで、中身的に指導の内容というのは、今までと変わったところは無いという事ですな。」

三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長

「学童保育自体そのものは、やはり家に帰っても子供さんが一人になってしまうとか、そういう方々に対して登録していただいて学童クラブを作っている訳ですけれども、特に指導という事に関しては、基本的にはお預かりするという事で学習を強要するとか、そういうものでは決してございません。現状として大変喜ばれているのは異世代の交流が出来るという点、また全部の施設がそうとは限らないかもしれませんが、宿題は一人がやり始めるとみんなが始め、宿

	題が終わってから遊びはじめるといういい傾向があって、集団生活がそこで育まれているというのが現状でありますので、子供達の伸びやかな部分を安全をはかりながら見守ってあげるというのが基本ですので、より子供さん達が伸び伸びと過ごせるような空間を作ってあげられればなと考えております。」
佐藤市民課長	「先ほどの質問についてですが、75歳以上の人間ドックについては、直接各自が病院に申し込むという形になっておりますし、支払いについては2万8千円お支払いになって、市からの補助は無いというのが現状でありますので。」
B 委員	「ついでにもう一つお願いします。スキー場の敷地料が年間300万円も払っていると、地域にどうしてもスキー場が欲しいというのであれば、あそこの敷地料が年間300万というのはものすごく高いと思うんですよ。地元として、ある程度下げてというやり方も一つ考えなければいけないなと感じている訳ですが、当局では高いとも安いとも思わないものですか？」
植村総合支所長	「私も最初スキー場の借地料を見て、正直言ってビックリしました。というのは、借地料を積算するにはそれなりの根拠があって、例えば評価額の8%とか、あとは由利本荘市で決めている単価もあります。それにもちょっと遠いのかなという感じがしておりました。今回の場合については、旧鳥海町でスキー場を建設するに当たって、その土地が最適地だったと、ここしか無いという事であったのであれば、やっぱり少しくらいの価格の高さはあってもその場所を選んだ経緯があるんじゃないかなと私は考えております。ただ、これからスキー場を運営するに当たっては、市のほうからも指示されている事は、運営についても少し工面しなさいというような話もありますので、当然スキー場を預かる我々職員において、その借地料も含めながら検討していかなければならないと思っておりますので、よろしくお願いします。」
B 委員	「全くその通りだと思うんですよ。その当時は山の価値とか非常に高かったと思うんですが、今は山とか原野の価値も下がっている時代だから、やはりどうしても鳥海でスキー場を残したいとすれば、お願いしながらある程度まで下げていただいて存続させるという方法でなければ出来ないんじゃないかなと思います。」
植村総合支所長	「余談ですが、他の借地料についても見直しを図っているところであります。これは鳥海だけに限らず、由利本荘市全体で段階的に市の基準に合わせていくという事で、ただスキー場は別格のものでありますので、そこらへんは勉強していきます。」
B 委員	「なるべく勉強して存続させるようにお願いします。」
議長	「それでは次にその他として総合支所各課長より、何かありましたらお願いします。」
三浦福祉保健部政策監兼福祉保健課長	「灯油の助成金補助というのが2月15日から3月21日までで申請が終わりましたけれども、これは灯油の高騰に伴う経済的な負担軽減を図るという事で、非課税世帯、高齢者世帯、一人親世帯など規定はございますけれども、その中で鳥海地域では157人が申請しております。もう一つは笹子保育園の屋根について歪みが発見されまして、2月23日に落雪した際の氷が原因だと思われますけれども、3月22日に卒園式が行われ、その前までに修復が終わりまし

振興課 佐藤主席参事	た。関係各位には本当にご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。」 「平成19年度で進めておりました、小川・下笹子の移動通信用鉄塔についてですが、作業も順調に進みまして、いよいよ明日から試験電波が発射という事で、明日からは DoCoMo が使えるようになるのではないかと思います。相乗りで KDDI の方ですが、そちらの方は4月26日の試験電波発射というふうに聞いております。それから、お手元にバスの関係の資料がございますが、アンケート調査を行った結果であります。それに先立ちまして3月5日には、関係地域の行政協力員のみなさんにお集まりいただきまして、これからの計画をお話したところであります。これからの具体的な計画につきましては、路線の延長はとりあえずありません。中直根線については1本増便で、ワゴンのリースという事で市の予算を付けていただいておりますので、4月1日からワゴンを利用し、今まで使っておりました中直根線の車を猿倉線に使用します。そういった関係で時間的には朝が若干早くなりまして、最終の夕方便も若干変更しております。3月5日の会議、アンケート調査の結果を踏まえた調整であります。なお、猿倉線・皿川線沿線住民の方々からは、増便と車両の大型化を要望されておりますけれども、今後の利用状況によりまして、また予算要求をさせていただきたいと考えております。当面こういう方向で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくご理解をお願いいたします。以上です。」
村上振興課長	「鳥海総合支所長より締めめの挨拶を申し上げます。」
植村総合支所長	「今年度最後の地域協議会、長時間にわたりまして本当にありがとうございました。今日の案件であります予算の話になりますと、どうしても厳しい厳しいという声が出る訳なんです、こんな厳しい中でも水道の改修事業がスタートしているというのは、鳥海の水は美味しい訳なのですが、それに安全という事が加わる訳なので、こういった点もありますのでなんとか皆さんからPRしていただければなあと思います。一太郎さんからもお話がありましたけれども、お金が無いなら工面しろという事です。これから20年度に進めるハード事業、ソフト事業、イベントやらさまざまな行事についても工面しながら行って行きたいと思っておりますけれども、なんとか皆さんからのご支援ご協力を重ねてお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。本当に今日はご苦労さまでした。」
村上振興課長	「長時間に亘り、大変ご苦労さまでした。今年度の地域協議会は、本日の地域協議会で終了となります。今後も皆様からたくさんのご意見をいただきながら、会を進めてまいりたいと思いますので、新年度になりましても、万障繰り合わせの上多数ご出席くださいますよう、よろしくご理解とご協力をお願いします。 これもちまして、第6回鳥海地域協議会を閉じます。 この後、会場を横丁に移して懇親会を行う予定でありますので、委員の皆様はご移動をお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。」 (閉会 午後5時20分)